みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

Cultural Heritage Management and Tourism in Thailand a Case Study of Sukhothai Historical Park

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2009-04-28
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 橋爪, 紳也, 神田, 孝治, 清水, 苗穂子
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00001586

西山徳明編『文化遺産マネジメントとツーリズムの持続的関係構築に関する研究』
国立民族学博物館調査報告　61:83-95（2006）

タイにおける文化遺産管理とツーリズム
スコータイ歴史公園を事例として

橋爪　紳也
大阪市立大学
神田　孝治
鈴鹿国際大学
清水　苗穂子
大阪市立大学後期博士課程

Cultural Heritage Management and Tourism in Thailand
a Case Study of Sukhothai Historical Park

Shinya Hashizume
Osaka City University
Koji Kanda
Suzuka International University
Nahoko Shimizu
Graduate Student of Osaka City University

本稿では，文化遺産管理とツーリズムの関係性を，タイのスコータイ歴史公園を事例に検討した。スコータイは，13 世紀から 15 世紀に栄えた仏教寺院が多数建立されているタイ族最古の王朝の都であり，タイ政府はここを国家の象徴として重要な遺産と位置付け，1953 年から遺跡の修復作業を行った。かかるナショナルにとっての真正な文化遺産は，1976 年からユネスコがタイ政府の事業に協力し，1979 年に世界的なキャンペーンを行うにつれてグローバルな価値を持つようになった。このユネスコの参加を契機に，スコータイにはツーリズムが関係するようになり，特にそれは祭りや踊りといった文化面での保存と関係づけられていた。この歴史公園計画におけるツーリスト・イベントとして，スコータイ王朝時代の祭りであるロイ・クラトーンを 1980 年代初頭に復活させ，タイ人と同時に外国人ツーリストを惹き付けるようになったことが確認された。さらに，1991 年にスコータイ歴史公園がユネスコの世界文化遺産に登録されると，大幅な外国人ツーリストの増加をみると同時に，1998 年からはロイ・クラトーンをより外国人向けのイベントにアレンジしたスコータイ・ナイトが開催され，外国人ツーリストの集客に大きな役割を果たすようになっていることが判明した。

This paper clarifies the relationship between cultural heritage management and tourism, in the case of Sukhothai historical park in Thailand. Sukhothai, the oldest Thai dynastic capital flourished between 13th and 15th century, is the place where many Buddhist temples were erected. In 1953, the Thai government has ranked here as important heritage for national symbol and started the repairing work. Such authenticity of cultural heritage for national has been acquired global value with cooperation of the UNESCO to the Thai government's project in 1976, and carried out universal campaign in 1979. Since the participation of UNESCO,

Sukhothai has started to concern with tourism, particularly it's related to the festival and dance in terms of cultural preservation. Then, the tourist event in this historical park project "Loi Krathong", Sukhothai traditional festival has revived by Thai government in early 1980's, has attracted foreign tourists, not only Thai tourists, is confirmed. Moreover, the Sukhothai historical park is registered in UNESCO's world heritage in 1991, with staring plenty of foreign tourist has increased simultaneously, "Sukhothai Knight", more focus on foreign tourist's event than "Loi Krathong" has also started to perform in 1998, it has proved that large role of foreign tourists collection.

1　はじめに
2　スコータイ歴史公園開発計画とツーリズム
　2.1 スコータイ歴史公園開発計画発表前後のツーリズム
　2.2 スコータイ歴史公園開発とロイ・クラトーン
3　スコータイ歴史公園の世界文化遺産登録とツーリズム
　3.1 世界文化遺産登録とツーリストの増加
　3.2 スコータイ・ナイトの開催
4　おわりに

＊key words: Sukhothai historical park, world cultural heritage, tourist's event, Loi Krathong, Sukhothai Night
＊キーワード：スコータイ歴史公園，世界文化遺産，ツーリスト・イベント，ロイ・クラトーン，スコータイ・ナイト

1　はじめに

古代のモニュメントは常に国家の名誉となるものである。たとえ古いレンガのかけらでも，古代の歴史的遺跡のものであれば守る価値がある。スコータイやアユタヤ，バンコクが存在しなければ，タイ王国は何の意味もなさないのである（The Thai Government 1982:1）。

1982年，タイ政府がユネスコの協力の下で招集した「スコータイの保存と紹介のための国際キャンペーンに関するワーキンググループの第一回会合」が開催され，その最終報告書の巻頭には上記のようなタイ国王のスピーチが引用されている。ここで言及されるスコータイは，13世紀から15世紀にかけて栄えたタイ族最古の王朝であるスコータイ王朝の都であり，仏教寺院が多く建立されていたが，1876年に現在のスコータイ市に中心が移されてからは長らく放置され，遺跡内には道路が建設されて多数の民家が存在していた（菅野・西村　1993:433）。そこでタイ政府は，1953年からスコータイの遺跡や城壁の発掘や修復，遺跡内の集落の移転事業を開始した。これらの保存と修復作業は，先の引用のタイ国王のスピーチにあるように，そこがナショナル・アイデンティティの象徴であると考えられていたために推進されたものである。タイ政

府はスコータイを宗教的に神聖な国家の遺産として位置づけ（The Thai Government 1982:1），1975年にはFAD（Fine Arts Department）がスコータイ遺跡を復元維持していくための「スコータイ歴史公園開発計画」を発表した（Fine Arts Department and Ministry of Education Government of Thailand 1993:163）。そしてユネスコは，1976年にこのタイ政府の事業に協力することを宣言し，1977年にマスタープランを発表して，1979年からは「スコータイの保存と紹介のための国際キャンペーン」を開始している（The Thai Government 1982:1）。

ユネスコの参加は，タイ政府によるスコータイ歴史公園開発計画に，２つの新しい視点をもたらしたと考えられる。一つは，グローバルな視点である。先述のように，スコータイはタイのナショナルな象徴たる遺産として考えられていたが，ユネスコが介在し国際キャンペーンを展開することで，グローバルな価値をも持つ遺産としても位置づけられるようなった。1991年，ユネスコがスコータイを世界文化遺産に登録して以降，この傾向はより顕著になる。

二つ目は，ツーリズムである。ユネスコは，FADがスコータイ歴史公園開発計画を発表した翌年の1976年，UNESCO憲章で，「特にツーリズム産業を目的とした多様な経済活動によって地元周辺の住民の所得を増加させるため」，「ツーリズム施設を供給すること」について言及し，世界遺産とツーリズムの関係を明示した（Fine Arts Department and Ministry of Education Government of Thailand 1993:163）。すなわち，ユネスコがスコータイ歴史公園開発計画に協力すること，さらにそこを世界文化遺産に登録することにより，ツーリズムがスコータイの整備計画に組み込まれることになったのである。タイ政府においても，1969年にツーリズム振興の必要性に応答してTOT（Tourist Organization of Thailand）を創設し，また1970年代後半にツーリズムが外貨獲得の主要産業になったことを受けて，1979年にはTAT（Tourist Authority of Thailand）を設立した（Peleggi 1996:434-435）。タイ政府の方針に観光開発が始めて掲げられたのは，第4次経済社会計画発展5ケ年計画（1977－1981）であり（Peleggi 1996: 435），TATの設立年がユネスコによるスコータイ国際キャンペーンと同年であることからも，ユネスコのスコータイ保存への協力が，タイ政府のツーリズムへの関心に大きな影響を与えていたと考えられる。実際に，FAD管轄下のスコータイ歴史公園は，TATと地元自治体が協力することで推進されることになった（Vuthisathira 1988:152）。

そこで本稿では，スコータイ歴史公園を事例に，ナショナルな伝統が強調されるなかで管理が行われるようになった文化遺産に，グローバルな視点や価値が介在するなかで，どのようなツーリズムが企図され，実際に展開されているのか，文化遺産管理とどのような関係を有しているのか，を確認してみたい。まず第２章の1節では，スコータイ歴史公園計画発表前後のスコータイにおけるツーリズムの状況を概観してみたい。そ

して，2節においてスコータイ歴史公園開発計画に，どのようにツーリズムが取り込まれ，またいかなる政策がとられたのか，特に象徴的な事業であるロイ・クラトーンの開催に注目する。そして，第3章の1節では，世界遺産にスコータイが登録されたことによるツーリストの変化について確認し，遺跡保護との関係性や，ツーリストプロモーションの方針について，ヒアリングの結果をもとに報告する。また2節では，1998年に開始されたスコータイ・ナイトに注目し，ナショナルな価値を有すると同時にグローバルな価値を有する文化遺産のスコータイ歴史公園で，いかなるツーリスト・イベントが展開されているのかを報告したい。

2　スコータイ歴史公園開発計画とツーリズム

2.1　スコータイ歴史公園開発計画前後のツーリズム

まず，1975年のスコータイ歴史公園計画発表前後のツーリズムの状況を確認してみたい。

当時，バンコクなどからスコータイに訪れるためには，鉄道か飛行機でピサヌロークに向い，そこからバスに乗り換えなければならなかった（The Thai government 1982: 56）。しかしながら，1973年からエアコン付きのバスが運行され，スコータイ，ピサヌローク，カンペーン・ペッ，シィー・サッチャナライ地域のツアープログラムが設置されると，ツーリストが増加していた（The Thai government 1982: 56）。

ユネスコによるマスタープランが発表された1977年のラームカムヘン（Ramkamhaeng）国立博物館による調査では，1日に約350人のツーリストがスコータイ市を訪れている。特に年末の祭りの時期には1日2,000人から3,000人がやってきていたことが報告されている（The Thai government 1982: 56）。ただし，タイ人ツーリストの大半は他の目的地に行く途中でスコータイを訪れ，2，3の古代遺跡で2，3時間過ごすだけであり，あまり人気のない観光地であった（The Thai government 1982: 56）。一方，外国人ツーリストは主に地元や国際旅行会社によって手配された旅行グループで訪れ，30～40人の集団のほとんどが高齢者であり，80%がフランス人かドイツ人であった（The Thai government 1982: 56）。確認されたなかで最初期のツーリスト数を示す統計では，1979年段階で，スコータイにはタイ人ツーリスト127,600人，外国人ツーリストは39,900人が訪れていたと記されている（Fine Arts　Department and Ministry of Education Government of Thailand 1993：181-182）。

またバンコクとチェンマイの間の下北部小地域（The Lower Northern Subregion）の観光開発マスタープランを作成したチュラロンコン大学の報告書（Chulalongkorn University 1984）から，1984年段階のスコータイ・ツーリズムの状況も確認することができる。この報告書には，スコータイなどの遺跡が点在するピサヌロークを中心とし

たタイ下北部は，タイにおける主要な観光地ではなく，交通アクセスが悪く，ホテルなども含め観光インフラが整備されていなかったこと，また観光資源である遺跡も，タイ政府が充分な資金を準備できず，荒廃の速度を遅めるに留まり，きちんとした修復がなされていなかったことが記述されている。またこの地のツーリストは，その90％をタイ人ツーリストが占めていたが，その中でもスコータイの遺跡に関しては，外国人ツーリストを惹き付ける場所となっていたとされる。たしかにこの年のスコータイへのツーリスト数は，タイ人ツーリストが216,000人に対し，外国人ツーリストが97,500人を占めており，この地域においては外国人を集客する観光地となっていたことがわかる（Fine Arts　Department and Ministry of Education Government of Thailand 1993：181-182）。またチュラロンコン大学の報告書では，特にスコータイ遺跡におけるロイ・クラトーンが，外国人ツーリスト市場を促進していることが指摘されている。

ロイ・クラトーンとは，陰暦12月の満月の夜，全国各地で，農民の収穫に恩恵深い水の精霊に感謝を捧げ，また罪や汚れを水に流し，魂を清めるためにおこなわれる祭りで，バナナの葉や紙で作った灯篭を，ロウソクや線香や花で美しく飾り，満月を映す水面に流す行事である[1)]。このロイ・クラトーンは，TATのブーンヤパック（Wiwatchai Boonyapak）の話[2)]によると，約20年前，FADの首席であり，スコータイ歴史公園のディレクターであったムシカカーマ（Nikon Musikakama）が，歴史書の中にスコータイ時代のこの祭りに関する記述を発見し，歴史公園の存在を世界に知らしめるため，そして祭りを保護するために，スコータイ歴史公園のマハタート遺跡の前ではじめたイベントであったとのことである（第1図）。

第1図　ロイ・クラトーンの絵葉書

スコータイ歴史公園計画の発表前後においては，外国人ツーリストはわずかしか訪れず，また観光地としてもタイの中で重要な位置付けではなかった。しかし歴史公園計画と関連して伝統的な祭りが発見され，主に外国人を対象にしたツーリスト・イベントであるロイ・クラトーンが開催されるようになって，状況に変化が見られたと考えられる。

2.2 スコータイ歴史公園開発とロイ・クラトーン

次に，スコータイ歴史公園計画とツーリズム，特にロイ・クラトーンとの関係性について検討してみたい。1977年にユネスコが発表したマスタープランには，以下の6つが目的として掲げられていたことが確認される。

(1) 土地利用（特に建築上の）を法的にコントロールすること
(2) 考古学的遺跡の調査と修復をすること
(3) スコータイ王統治時代のように木や植物を再現すること
(4) 電気，上水道，道路などスコータイ市にインフラ整備を行うこと
(5) 遺跡とコミュニティを区別すること
(6) 恒例の祭り，民族習慣，歌，ダンスを復活させるための手段として観光地化を推進すること

（The Thai Government 1982: 56）

これら(1)から(6)のうち，(4)以外のすべてが，保存や修復，過去の再現を目的としていることがわかるが，遺跡の調査や修復に加えて，祭りやダンスといった文化の復興が，ツーリズムに関連づけられていた。

また先の1982年に発行されたスコータイの国際キャンペーンに関する報告書では，具体的なツーリズム開発の手段として，「遺跡地域の方向を明確に示した道標を立てること」，「ツーリストの安全のため警備の増強を行うこと」，「ホテル建設の民間投資を行うこと」と共に，「歴史都市の伝統的な祝祭を復活させるため，FADとTATが協同すること」を掲げ（The Thai Government 1982: 57），実際に行われている観光促進事業として，「カフェテリア，保養地域，駐車場のような基礎的な観光施設の供給」，「ツーリストインフォメーションセンターをスコータイや旅程への設置」，「安全業務の強化」，「城壁外の一流ホテル建設による民間セクターへの利益の促進」，「中心部へのキャンプ場設営」と共に，「ろうそくの照明や花火の打ち上げのような年一回の祝祭の復活」や「伝統的な演劇のための野外映画館の設営」を挙げている（The Thai Government 1982: 59）。このように，観光インフラ設備の整備と共に，FADとTATの協力による伝統的な祝祭の復活が企図され，ロイ・クラトーンに際して実施されてい

るろうそくによる演出や花火の打ち上げといった催事が，1982年段階で行われていたことが確認される。

さらに1983年のアクション・プランでは，スコータイの国際キャンペーンの成果が芳しくはないなかで，「TATとの協力によるスコータイの宣伝強化」，「国立博物館の改良と拡張」，「ガイドツアーなどのシステム化された方法」と共に，「TATの協力の下，地元の芸術学校と協力し，スコータイ芸能の調査とプロモーションを行い，オープンシアターでのスコータイ王の物語をミュージカルで制作すること」と，スコータイのロイ・クラトーンの際に実施されているミュージカルの計画が掲げられている（The Thai Government 1982: 16-20）。1986年初頭の山田（Sohiko Yamada）の報告では（The Thai Government 1987:30-31），この2年間にわたって公園当局が組織したスコータイ歴史公園におけるロイ・クラトーン祭りが，何千もの人々を魅了して成功を収めた，と記されていることから，1984年からロイ・クラトーンが本格的に開催され，多くのツーリストを集めていたことがわかる。

このように，歴史公園計画における文化遺産の保護事業において，単に物的な遺跡の修復だけではなく，付随する文化的なイベントを企図することで，ツーリズムが介在する領域が生じた。外国人ツーリストの集客を企図して，TATやFADの協力の下でロイ・クラトーンという年中行事を再編集し，遺跡での観光イベントとして実施するようになった。

3　スコータイ歴史公園の世界文化遺産登録とツーリズム

3.1　世界文化遺産登録とツーリストの増加

1991年，タイにおける世界遺産として，文化遺産の「古都スコータイと周辺の古都」及び「古都アユタヤと周辺の古都」と，自然遺産の「トゥンヤイ－ファイ・カ・ケン野生生物保護区」の3ヶ所が指定され，1992年には「バン・チェン遺跡」が追加された。「古都スコータイと周辺の古都」の選定理由には，「スコータイ歴史公園はシャム（タイ）最初の建築様式の最高傑作を表出していること」と，「3地域（スコータイ，シー・サッチャナライ，カンペーン・ペッ）はシャムアートの最初の時期であり，タイ王国の一番初めの創造物であること」が挙げられ，スコータイ歴史公園はタイにおける世界文化遺産の中心地の一つに位置付けられた[3)]。

第1表に，1988年以降のタイ人と外国人のツーリスト数の変化を示した。ここにあるように，世界遺産登録後，スコータイ歴史公園へのツーリストは，特に外国人を中心に増加している。2003年はSARSやテロの影響で大幅に外国人ツーリストが減少したが[4)]，その影響を受けていない2002年では，1988年に比べて外国人ツーリストは4倍以上にまで増加し，タイ人とほぼ同数のツーリスト数となっている。また2002年における国

別のツーリスト数をみると（第2表），フランス人，ドイツ人，日本人が主たる外国人ツーリストであることがわかる。

この増加するツーリストとスコータイ遺跡の保存との関係性について，FAD第6地方事務所のスリスチャット（Khun Tharapong Srisuchat）にヒアリングを行った[5)]。彼によれば，タイ政府からは遺跡の修復・保護費しか出ておらず，地元の人々を雇用して行われる芝刈りや清掃などの公園の維持管理費用は，すべて歴史公園の入場料（タイ人10バーツ・外国人40バーツ）などの観光収入から捻出されているとのことである。スコータイ歴史公園の維持管理費が月間約50万バーツであるのに対して，観光収入は月間約130万バーツであるため，ツーリズムによってもたらされた資金によって，公園の維持管理がまかなわれていることが確認された。また，観光収入をすべて一度タイ政府に納めて，そこから再度配付されているため，維持管理費用ばかりでなく，タイ政府が支給する遺跡の補修・保護費用年間約2,000万バーツの一部についても観光収入が利用されていると考えられた。ただ，西洋人の一部は，仏陀にのぼり記念写真を撮るという，遺産保護に影響を及ぼす振る舞いをしており，ツーリストから遺跡を守るため，登る事を禁止する掲示を設置するなどの対策が必要であるとの指摘もなされていた。FAD側としては，その仕事はあくまで保存であってツーリストの誘致ではなく，ツーリストが増えると遺跡管理のためのコストが増加するので，増やしたくないとも言及されていた。このように，遺跡管理を行うFADにとってのツーリズムとは，資金面では依存するものの，実際の管理に際しては負担となるという両義的なものであると考えられる。

一方，スコータイのツーリストプロモーションについては，TATのブーンヤパックとピリヤキアット（Khun Plakit Piriyakiat）にヒアリングを行った[6)]。ブーンヤパックによれば，1991年の世界遺産指定以前は，国内ツーリスト向けに「歴史公園」の名前で売り出していたが，世界遺産指定後は「世界遺産」で対外的にスコータイを売り出し，またプロモーションにもより力を入れるようになったとのことであった。さらにピリヤキアットによれば，特にタイの歴史を学びたいツーリストの誘致に努め，以前は年配のツーリストが多かったが，現在では若いツーリストも欧州からも来ており，両世代のツーリスト誘致を行っているとのことであった。また，TATの観光誘致政策としては，1997年から国際ツーリスト誘致のための「Amazing Thailand」キャンペーンや国内ツーリスト誘致のための「Unseen Thailand」キャンペーンを実施しているが，これはタイ全体のプロモーションであり，直接的にスコータイに関係があるものではないとの指摘があった。しかしながら，2004年のTATのツーリストプロモーション計画では，タイの新しい側面として多様な観光資源を売り出し始め，その4つのうちの一つとして掲げられた「歴史と文化」の項目に「バンコク，チェンマイ，チェンライ，スコータイ，カンチャナブリー，プラナコンシー，アユタヤ」を選んでいる。この他に，「新しい観

光商品」として，12分野が作られ，その中の「歴史的場所」の項に「カンペーン・ペッ－スコータイ（世界遺産ルート）」があることから，世界遺産としてのスコータイに注目したツーリストプロモーションが計画されていることが確認される[7)]。

3.2 スコータイ・ナイトの開催

世界文化遺産登録以後におけるスコータイへの集客の試みとして，1998年に開始されたスコータイ・ナイトというイベントが特徴的なものとして挙げられる（第2図）。これはスコータイ歴史公園内のほぼ中央に位置するワット・サー・スィー遺跡で行われ，タイ文化の礎を築き上げた13世紀のスコータイ王朝当時の叙事詩を再現したショーを披露しながらタイ料理をツーリストに振る舞い，さらに地元スコータイの伝統的な踊りであるクロン・マングラの公演，タイの伝統的音楽の演奏，伝統的な花火打ち上げなどのライト＆サウンド・プレゼンテーション，灯籠流しなどが行われる（Peleggi 1996:440）。これらは，先述のロイ・クラトーンを基礎にしているが，毎月一回の定期公演と同時にプライベートツアー用の独占ショーにも応じ，入場料を一人500バーツ徴収して，かつタイ語の他に英語や日本語の外国語サービスも行われており，外国人ツーリストをより意識したイベントとなっている[8)]。

TATへのヒアリングによると[9)]，スコータイ・ナイトは，ロイ・クラトーンでは経費がかかりすぎるため，ツーリストにたいして高価でなく，手軽に楽しめるイベントを

第1表　スコータイ歴史公園への観光客数（人）※TAT提供資料による

	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
タイ人	377,385			126,393	225,601	247,244	192,790	236,108
外国人	80,062			191,268	52,474	60,250	221,031	262,061
合　計	457,447			317,661	278,075	307,494	413,821	498,169
	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
タイ人	314,139	320,379	320,615	333,699	345,146		364,287	431,507
外国人	297,179	313,704	316,659	325,289	335,957		351,540	208,105
合　計	611,318	634,083	637,274	658,988	681,103		715,827	639,612

第2表　2002年もスコータイにおける国籍別宿泊数　※TAT提供資料による

国名	タイ	日本	フランス	ドイツ	アメリカ
人数	118,624	33,155	40,474	40,443	8,441
国名	オランダ	イギリス	スイス	イタリア	オーストラリア
人数	7,852	7,325	6,300	5,447	5,056
国名	カナダ	オーストリア	ベルギー	デンマーク	ニュージーランド
人数	4,081	3,391	3,017	1,811	1,725
国名	インド	スウェーデン	香港	シンガポール	韓国
人数	1,340	1,313	1,193	832	771
国名	中国	マレーシア	台湾	中東	その他
人数	724	640	343	224	5,315
					合　計
					299,837

提供しようという意図から，TATによって企画された。またそれは，TATが25年以上前に視察した，日中の暑さを避けて夜間開催されていた，エジプトのピラミッド前で行われていたイベントを参考にしたとのことである。オフシーズンにも実施は可能であり，結果として，ツーリストの増加に大きな影響を与えていると指摘されていた。またこのイベントの運営は，地元のSTBC（Sukhothai tourism business club）によって行われており，ショーへの参加など地元の雇用機会の創出にも役立っているとのことであった。

また，スコータイ・ナイトの発起人の一人であるSTBCのスィンハチョン（Prasertsak Singhachong）にもヒアリングを行った[10)]。彼によればSTBCは，10年ほど前にTATの管理下で発足し，土産物店や料理店などスコータイ県全体で60名ほど参加している団体であるとのことであった。スコータイ・ナイトの踊りは，国立のスコータイ・ドラマティカル・アートスクールの小学校6年生から短大生くらいまでが担当しており，70人ほどの踊り子が出演する。年間最低30回開催され，学生は1回100バーツほどの収入がある。学生たちは以前から儀式に際して踊りを披露していたが，スコータイ・ナイトがはじまってからは，イベントへの出演によって生活ができるだけの収入を得られるようになった。現在学生達が担当している踊り・音楽・照明・料理について，将来的には地元の村の人々に行ってもらうことを企図しているという。

スコータイ・ナイトは，TATによって企図されたツーリスト・イベントだが，実際は地元のグループによって運営され，地元住民に現金収入の機会を創出しているイベントであるといえる。またFADも，ツーリストにタイの歴史を知ってもらうという名目で後押しをしており[11)]，スコータイ・ナイトは，FAD，TAT，そして地元という3者が協力することで推進されている。

4　おわりに

本稿において，以下のことが確認された。

①スコータイ歴史公園では，国家の真正な地として保存・修復が進行したが，ユネスコの協力によって作成されたマスタープランでは，特に祭りやダンスなどの文化的な側面の保存の問題とツーリズムが関係づけられた。結果，文化遺産の保存を担当するFADと観光振興を担当するTATが協力し，外国人ツーリストを主たる対象とするツーリスト・イベントにアレンジされたロイ・クラトーンが開催されたことが確認された。すなわち，ナショナルな真正性を構築する文化遺産事業にグローバルな視点が介在することで，真正な文化的イベントであるいにしえの祭りが発見・再現がなされ，それがツーリズムと関連づけられたことが判明した。

②1991年にスコータイ歴史公園が世界文化遺産に登録されると，外国人ツーリス

第２図　スコータイ・ナイトの様子（STBCのスィンハチョン氏提供資料）
上）スコータイ・ナイトの踊り
中）スコータイ・ナイトを観賞する観光客
下）灯籠を手に持って踊り娘と写真を撮る観光客

トの大幅な増加がみられた。この事は，スコータイのナショナルな真正性が，グローバルな価値を持つ世界遺産に登録されることで，ツーリストにとっての真正性となっていったと考えられる。また，入場料などの観光収入が，文化遺産の維持管理のために還元されていることが判明した。

③1998年に開催されたスコータイ・ナイトは，ロイ・クラトーンにおいて重視された真正なスコータイ文化の復興よりも，外国人を中心としたツーリストの要求を満たすということに重点が置かれたイベントになっていることが確認された。また，ツーリズムの利益を地元に還元すべく，その運営は地元のSTBCによってなされていたことも判明した。

本稿における検討は，スコータイ歴史公園とツーリズムの関係性を考える上で端緒となるものであり，今後より詳細な調査が必要とされている。またスコータイ・ナイトの成功が，その後，アユタヤやピーマイなどで実施されている夜の観光イベントの原型となった。さらにはアンコールワット・ナイトなど他国においても類似のイベントが実施されている。それらの比較検討も今後の課題としたい。

注

1） http://www.thailandtravel.or.jp/festi/index.html
2） ヒアリングは2004年10月15日に行った。
3） http://whc.unesco.org/archive/advisory_body_evaluation/574.pdf
4） 2004年10月13日におけるFAD第6地方事務所のスリスチャットへのヒアリングによる。
5） ヒアリングは2004年10月13日に行った。
6） ヒアリングは2004年10月15日に行った。
7） Tourism Authority of Thailand About TAT Marketing Plan 2004 Tourism products http://www.tourismthailand.org/about_tat.php?module=tat_marketingplan
8） TAT発行の観光パンフレット，「Mini Light & Sound Presentation 2004」による。
9） ヒアリングは2004年10月15日に行った。
10）ヒアリングは2004年10月13日に行った。
11）2004年10月13日におけるFAD第6地方事務所のスリスチャットへのヒアリングによる。

文　献

菅野博貢・西村幸夫・ヨングタニット・ピモンサティアン
1993 「タイ中北部スコータイ歴史公園開発における地域コミュニティ整備に関する一考察」，日本都市計画学会学術研究論文集 28，pp.433-438.
Chulalongkorn University Social Research Institute
1984 Master plan for tourism development in Phitsanulok Kamphaneng Phet Sukhothai Thk

Phichit, Tourism Authority of Thailand.
Fine Arts Department and Ministry of Education Government of Thailand
1993 'Sukhothai historical park development project master plan' (International Scientific Committee: Historic gardens and sites, ICOMOS), pp. 159-200.
Peleggi, M.
1996 'National heritage and global tourism in Thailand' , Annals of tourism research, 23(2), pp.432-448.
The Thai government
1982 Final report: First session of the working group for the international campaign for the preservation and presentation of Sukhothai, Bangkok and Sukhothai: Thailand.
The Thai government
1987 Final report: Fourth session of the working group for the international campaign for the preservation and presentation of Sukhothai, Sukhothai: Thailand.
Vuthisathira, S.
1998 'The Impact of the Sukhothai Historical Park on Education and Tourism' (Cultural Heritage in Asia(3) : Study on Sukhothai, Institute of Asian Cultures Sophia Univers